

## 第2章 前計画の取組状況

### 2.1 これまでの自転車の利活用推進の進め方

これまで本市では、平成14年度に策定した「宇都宮市自転車利用・活用基本計画」、その取り組みを踏まえ、平成22年度に策定した「宇都宮市自転車のまち推進計画（前期計画）」、平成27年度に策定した「宇都宮市自転車のまち推進計画（後期計画）」に基づき、安全・快適な利用環境整備やサイクルスポーツの推進、自転車を活用した健康増進、公共交通との連携強化など、幅広く自転車を利用できるよう様々な取り組みを進めてきました。

第2章では、これまでの取り組みを踏まえ、さらなる自転車の活用推進を図るため、「宇都宮市自転車のまち推進計画（前期・後期）」に基づき実施してきた10年間の取り組みについて評価を行います。

### 2.2 前計画の取組状況

#### 1)前計画の目標

「宇都宮市自転車のまち推進計画」で掲げた目標は次の通りです（後期計画で「つながる」を追加）。

<p><b>目標Ⅰ</b> だれもが“安全”に自転車が使える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自転車が安全に走行できる長く連続した道路環境を創出する</li> <li>・ 自転車のルール・マナーの意識を高め安全利用につながるよう啓発活動のさらなる充実を図る</li> </ul>
<p><b>目標Ⅱ</b> だれもが“快適”に自転車が使える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 街なかにおける自転車を利用した回遊性の向上と駐輪環境の充実を図る</li> <li>・ 自転車利用者の休憩施設の充実など多様な自転車利用につながる環境づくりを推進する</li> </ul>
<p><b>目標Ⅲ</b> だれもが“楽しく”自転車が使える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サイクルスポーツの魅力づくりや楽しく自転車利用ができる環境づくりを推進する</li> <li>・ 自転車のまちづくりに係る取組への市民理解の促進を図るため、啓発活動や環境づくりを推進する</li> </ul>
<p><b>目標Ⅳ</b> だれもが“健康とエコ”に自転車が使える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境負荷の低減や健康増進につながる自転車利用の拡大に取り組む</li> </ul>
<p><b>目標Ⅴ</b> だれもが自転車で“つながる”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自転車と公共交通がつながることで自転車利用の拡大を図る</li> <li>・ 都市や観光地が自転車でつながり、広域的に周遊できる環境づくりを推進する</li> </ul>



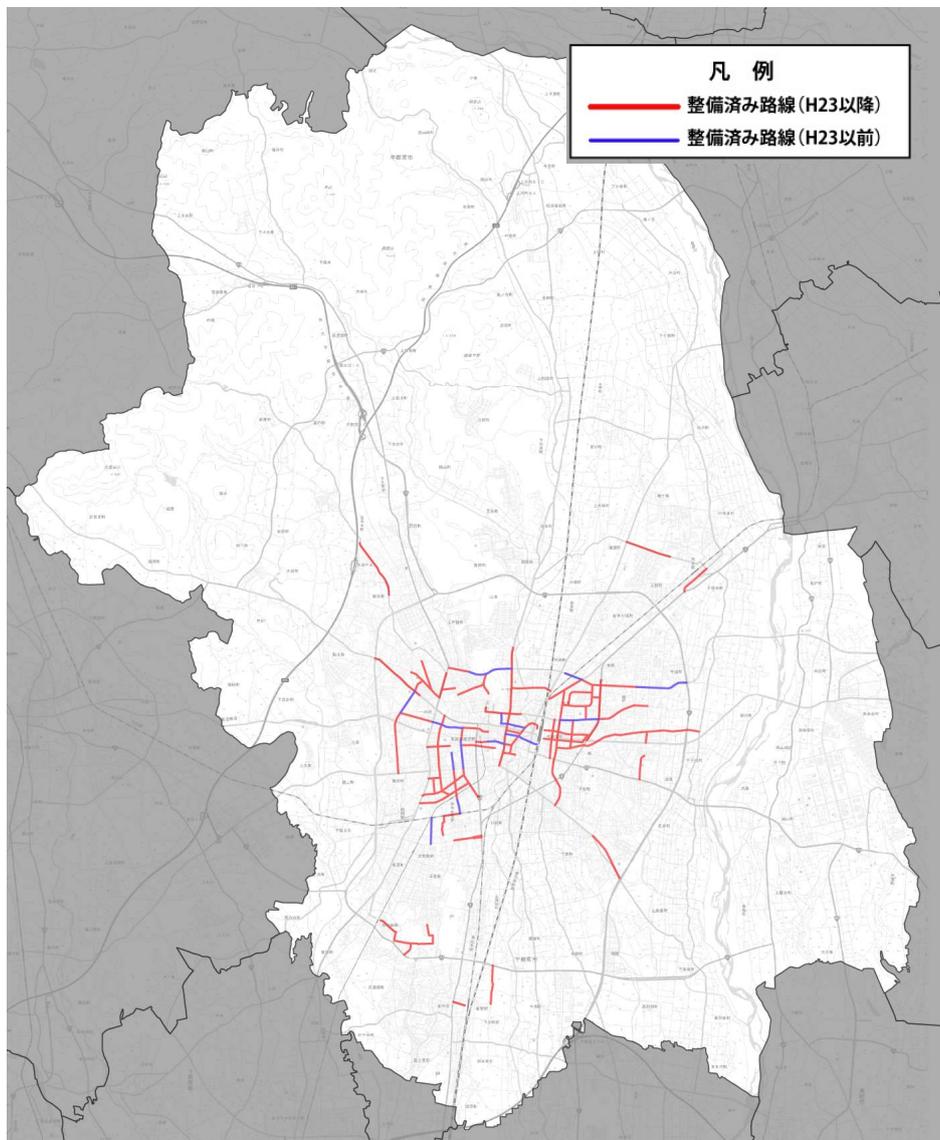
2)「だれもが“安全”に自転車が使える」に関する取組状況

①安全な走行空間の確保

自転車が安全に走行できるよう、自転車専用通行帯や矢羽根型路面表示などの整備を進めてきました。令和2年度末までに約51.3kmが整備され、目標値57.7kmの8割を超えるなど着実に整備を進め、安全性の高い自転車走行環境を創出してきました。

自転車走行区間整備延長

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R2 (目標)
整備延長 (km)	14.5	16.9	17.2	17.6	21.7	22.9	40.0	45.8	49.9	51.3	57.7



自転車走行空間の主な整備実績



②安全啓発活動の実施

自転車の交通安全教育については、子どもから高齢者までの各世代に応じて、自転車の基本的な交通ルールや正しい乗り方などを指導するため、子ども自転車免許事業（市内小学校：全70校）や宇都宮ブリッツェンと連携した自転車安全利用教室（年間：7校程度）、高齢者を対象とした自転車シミュレーターを活用した交通安全教室（年間：15回程度）を開催しています。

自転車安全利用のための広報啓発活動については、地域や高校生、警察等と連携しながら、自転車利用者に直接安全利用を呼びかける街頭指導（年間：30回程度）を継続的に実施し、ルール遵守の徹底を図ってきました。

それらの取組により平成25年から自転車に関連する交通事故件数は減少してきましたが、平成30年以降増加傾向に転じています。



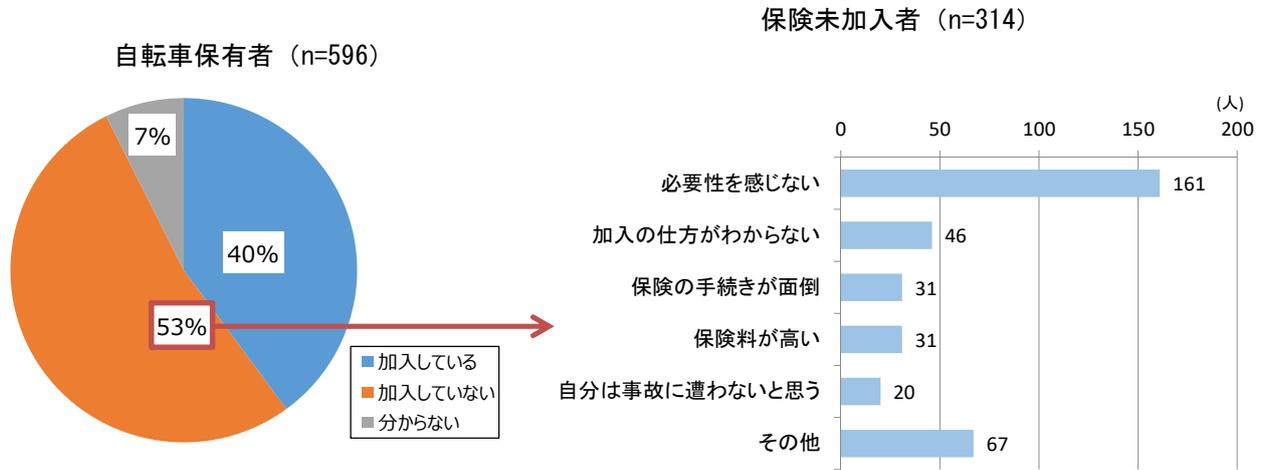
交通安全教室の開催状況

自転車に関連する交通事故件数

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2 (目標)
事故件数 (件)	533	562	509	421	429	354	342	409	428	320件 以下
死者数 (人)	1	7	1	3	2	1	1	2	1	



また、万が一の事故に備えることで安心して自転車が利用できるよう、小・中・高校生と保護者を対象に啓発チラシを配布するなど、自転車保険の加入促進に取り組む中、保険の加入率は40%程度となっています。



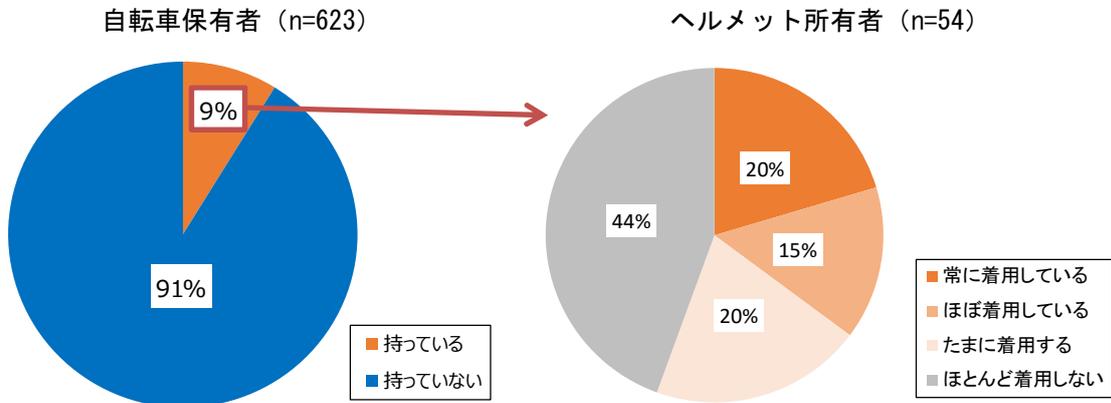
自転車の交通事故に対応する  
保険の加入の有無

資料：移動手段に関する市民アンケート調査  
保険に加入しない理由（複数回答可）



③安全を守る環境づくりの推進

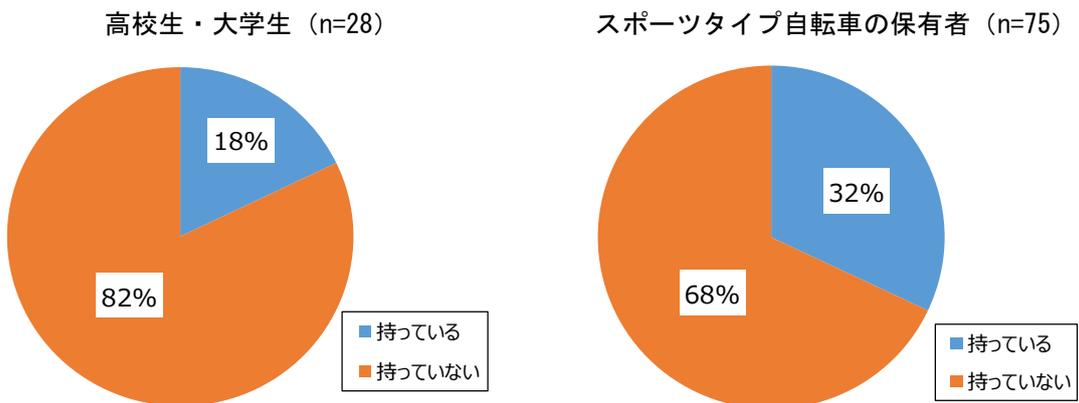
自転車利用時の安全性向上のため、ヘルメット着用の重要性について小・中・高校生と保護者に対するチラシ配布や広報紙での啓発など、継続的に周知・啓発を行ってきましたが、自転車利用者のヘルメットの着用率は低い状況です。



資料：移動手段に関する市民アンケート調査

自転車乗車用のヘルメットの所有率

ヘルメットの着用頻度



資料：移動手段に関する市民アンケート調査

自転車乗車用のヘルメットの所有率

「だれもが“安全”に自転車が使える」の課題

- ・NCGの形成を目指した自転車ネットワークを更に整備する必要があるため、自転車ネットワーク計画の見直しを行い、安全に走行できる道路環境を計画的に整備していく必要があります。
- ・自転車を安全・安心に利用できるよう、ヘルメット着用や自転車保険加入の意識を高める必要があります。



## 3)「だれもが“快適”に自転車が使える」に関する取組状況

## ①回遊性の向上

レンタサイクルの利用促進については、貸出場所の増設やニーズに合わせた配置台数の調整や放置自転車を再利用して安価に設置するなど利便性の向上に努めた結果、レンタサイクルの利用者数は毎年増加しており、令和元年度には47,590人となるなど、市内の回遊性向上に寄与しています。

レンタサイクル利用者数

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
レンタサイクル 累計拠点数 (箇所)	7	7	7	7	7	8	8	8	8
利用者数 (人)	34,277	42,049	45,662	45,707	45,582	45,184	45,893	49,005	47,590



②中心市街地における利用環境の向上

中心市街地における駐輪環境の向上について、市営駐輪場の定期利用の待機者を解消するため、駐輪スペースを見直して収容台数を増やすことにより、利用者は124,990人（令和元年度）と目標を大幅に上回りました。

令和2年4月にはJR宇都宮駅東口第2駐輪場の新規開設を行った一方で、老朽化している市営駐輪場も存在しています。

駐輪場の利用者数

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2 (目標)
中心市街地の 駐輪場利用者数 (人)	31,650	37,815	41,899	42,452	46,162	39,726	50,721	73,032	124,990	70,000

市営駐輪場の設置年月

No	略称	設置年月
1	中央1丁目	S63.4
2	中央小北	H1.4
3	高架下	S56.1
4	JR宇都宮駅西口	H5.4
5	JR宇都宮駅西歩道上	H21.1
6	JR宇都宮駅東口第1	H7.12
7	JR宇都宮駅東口第2	R2.4

(参考) 市営駐輪場の設置年月（中心市街地以外）

No	略称	設置年月
1	JR鶴田	H2.6
2	JR雀宮東口	H23.3
3	JR岡本駅西口	H28.7



放置自転車対策について、通常撤去（警告札貼付の翌早朝に撤去）や即時撤去（一定時間後に撤去）の強化により自転車の撤去台数が平成26年度の1,872台から令和元年度には1,284台に減少するなど、放置自転車を減らし中心市街地の良好な通行環境の確保に努めてきました。

放置自転車の撤去回数及び撤去台数

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
撤去回数 (回)	340	333	348	228	272	313	286	313	323
撤去台数 (台)	2,347	2,481	2,141	1,872	1,713	1,674	1,553	1,286	1,284

オリオン通りなどにおける駐輪環境・通行環境の向上を図るため、慢性的に放置自転車が多いエリアへの駐輪スポットの設置に向けて、令和元年度末から地元商店街との協働により駐輪ラックを設置する社会実験を実施しています。



オリオン通りの駐輪ラック

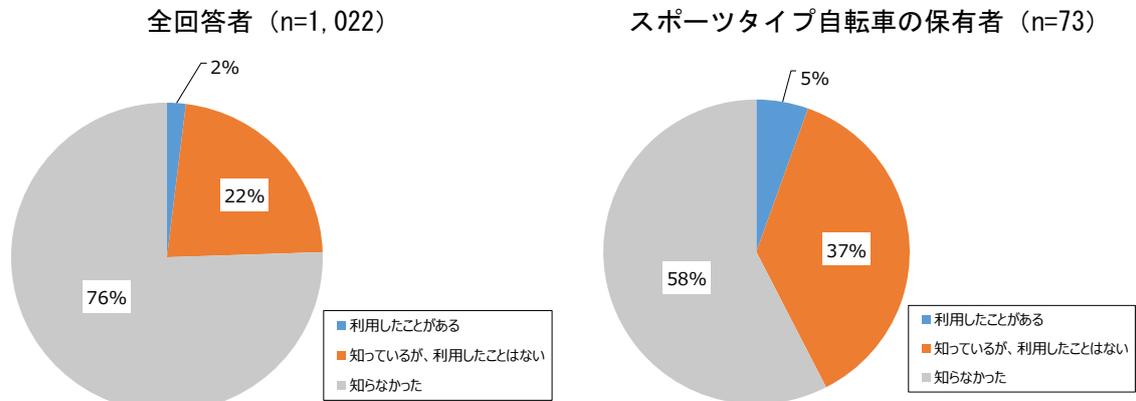


③サイクリストへのサポート

自転車の駅の充実については、サイクリストが気軽に休憩できる環境を整備するため、令和2年度までにサイクリングルート沿線の公共施設や観光施設、コンビニエンスストア等に「自転車の駅」を58箇所設置しました。しかしながら、自転車の駅の認知度や利用頻度は低い状況です。

自転車の駅の設置数

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
自転車の駅 設置数の累計 (箇所)	17	32	37	44	44	48	51	54	55	58



出典：移動手段に関する市民アンケート調査

自転車の駅の利用・認知の有無

④サポート制度の創出

民間企業の活力を取り入れた自転車のまちづくりを推進するため、自転車利用の促進に取り組む民間企業などに対する支援として、バス事業者等のバス停付近への駐輪場整備に対する支援や企業が保有する駐輪場の一般利用促進など、民間事業者と連携した駐輪環境整備を進めました。

「だれもが“快適”に自転車が使える」の課題

- ・ レンタサイクルについて、利用者ニーズを踏まえ、利用時間や貸出場所など更なる利便性向上を図る必要があります。
- ・ 駐輪場について、老朽化等に伴う市営駐輪場の再整備と併せた運営方法の見直し検討など、利用者ニーズを踏まえた利便性向上を図る必要があります。
- ・ 自転車の駅について、認知度を高めるとともにサイクリストが気軽に立ち寄れる施設として利便性向上を図る必要があります。



4)「だれもが“楽しく”自転車が使える」に関する取組状況

①プロスポーツとの連携・宮サイクルステーションの充実

ジャパンカップサイクルロードレースの開催及び周辺環境の向上については、JR 宇都宮駅から森林公園までの案内看板の設置やコース上に路面表示を整備するなど、大会の魅力向上に向けた取り組みや観戦者の受け入れ体制を含めた開催環境の充実に向けた取り組みにより、毎年10万人を超える観客が観戦するなど、国内外からの誘客促進とともに、「自転車のまち宇都宮」のブランド力向上に大きく寄与しています。



オリオン通りの垂れ幕

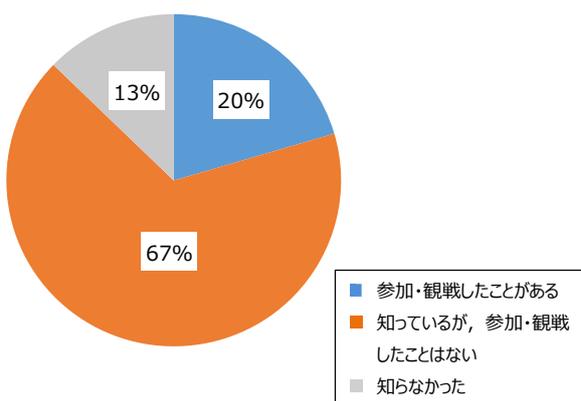


ジャパンカップ案内看板

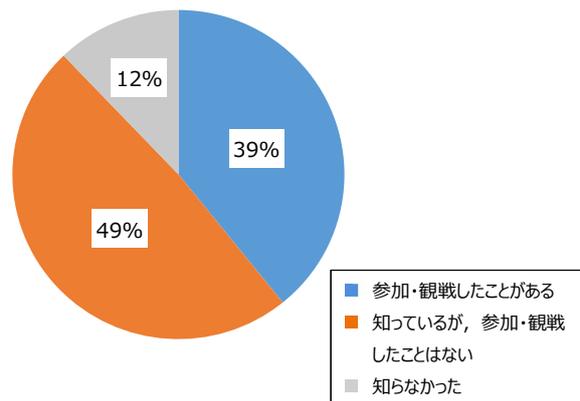
ジャパンカップ観戦者数

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
観戦者数 (千人)	103	116	100	121	125	135	118	132	132

全回答者 (n=1,056)



スポーツタイプ自転車の保有者 (n=74)



出典：移動手段に関する市民アンケート調査

ジャパンカップの観戦・認知の有無

プロ選手と連携した自転車教室やサイクルイベントの開催については、宇都宮ブリッツェンと連携し、自転車利用の楽しさや交通ルールを周知するための交通安全教室や健康増進を目的とした「いきいき健康自転車教室」等のサイクルイベントを継続的に実施しました。



宮サイクルステーションについては、本市の自転車利用促進の拠点施設として市内外から多くの利用者が訪れており、スポーツバイクのレンタルやスポーツバイクセミナーなどの様々な事業を実施することで、「自転車のまち宇都宮」のシンボルとしてブランド力向上に寄与しています。

しかしながら、来館者数は減少傾向にあり、令和元年度で3,969人と目標の6割にとどまっています。

宮サイクルステーションの来館者数とレンタサイクルの利用者数

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2 (目標)
宮サイクルステーション 来館者数(人)	6,296	4,725	5,610	5,692	5,194	5,687	5,231	5,025	3,969	6,200
レンタサイクル利用者数 (人)	883	602	852	1,173	1,147	853	754	753	521	-

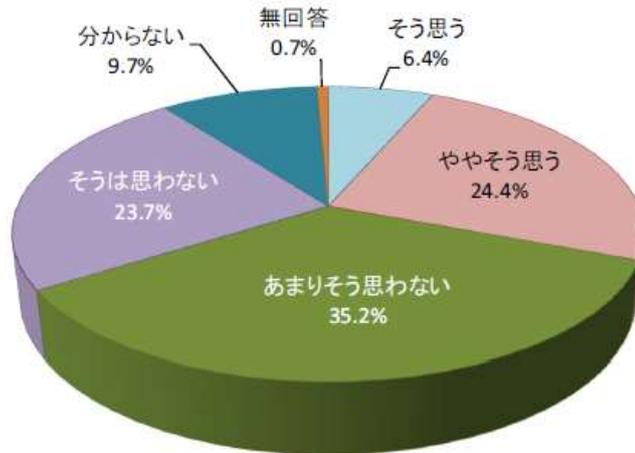


宮サイクルステーション



## ②自転車のまち宇都宮のさらなるPR

宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思うかについては、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた割合は30.8%であった。一方、「あまりそう思わない」「そうは思わない」を合わせた割合は58.9%となっています。



出典：第53回市政世論調査

「宇都宮市は『自転車を使いやすいまち』だと思う割合

また、サイクルイベントの開催及び開催支援については、「シクロクロス」や「サイクルピクニック」、「ブルベ」等のサイクルイベントに対して継続的な開催支援・広報活動を行い、自転車を活用した交流人口の拡大や誘客促進を図ってきました。

しかし、これまで実施してきた「ツール・ド・とちぎ」や「ブルベ」については令和元年度に終了となりました。

#### 「誰もが“楽しく”自転車が使える」の課題

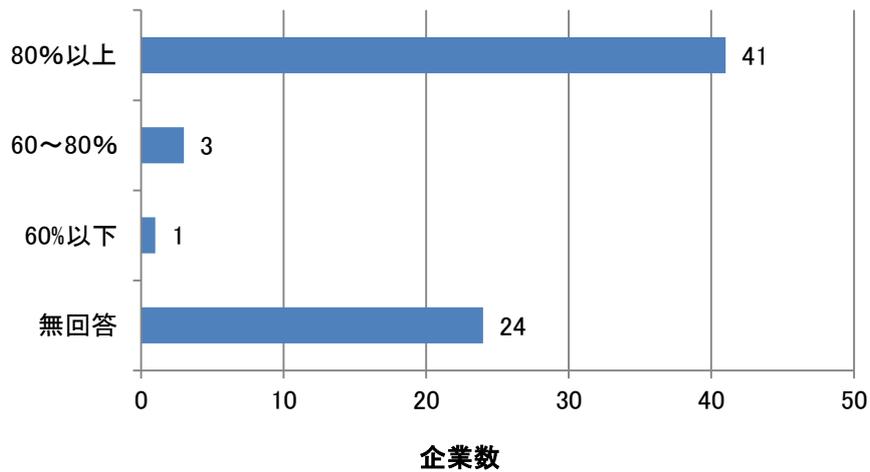
- ・ ジャパンカップの魅力向上のため、ジャパンカップコースを含めた森林公園の整備などにより、自転車の走行環境の向上や観戦環境の充実を図る必要があります。
- ・ 宮サイクルステーションは、「自転車のまち」の拠点施設として利用拡大を図るため、利用者ニーズに応じた機能拡充や施設規模等の検討を行う必要があります。
- ・ 「自転車のまち宇都宮」のブランド力向上に向け、市内外への情報発信、効果的なPR方法について検討する必要があります。



5)「だれもが“健康とエコ”に自転車が使える」に関する取組状況

①環境負荷の低減

自転車通勤の促進については、工業団地や中心市街地に立地している企業を対象としたアンケートの実施、啓発パンフレットの作成、企業や従業員を対象とした出前講座の開催（令和元年度末時点：累計6回）などにより、自転車利用による環境や健康に対する効果等の情報提供を行い、自転車通勤の促進に向けた取り組みを進めてきましたが、従業員の通勤手段の転換までには至っていない状況です。



出典：自転車通勤に関するアンケート調査（企業）

各企業におけるクルマ通勤者の割合（n=69 事業所）



自転車通勤パンフレット



自転車通勤出前講座



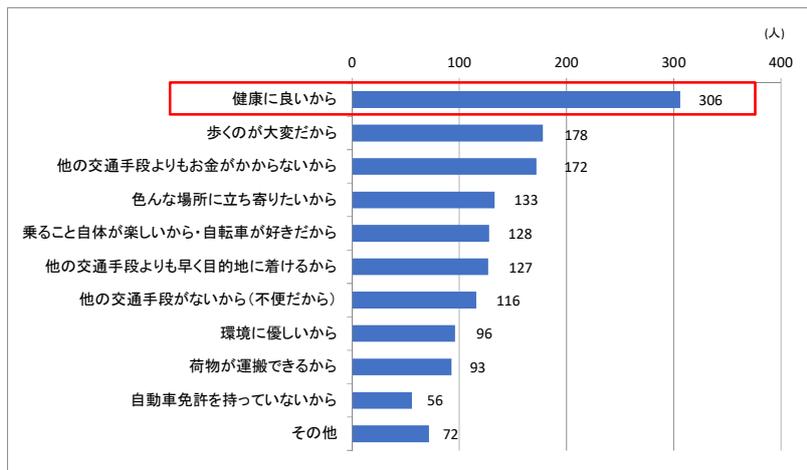
②健康増進のPR

健康増進に係る情報発信については、自転車通勤の促進への取り組みと連携して、企業や従業員を対象とした出前講座において自転車利用による健康増進の効果などのPRを実施しました。

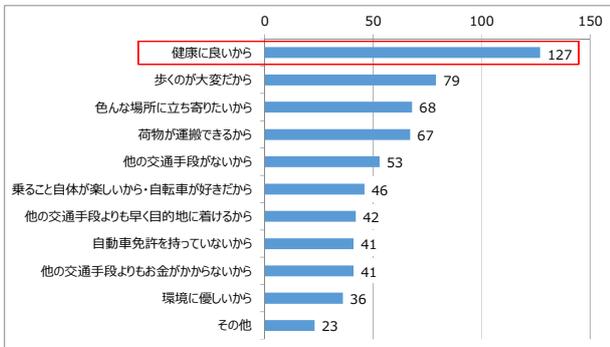
また、平成30年4月より開始した健康ポイント事業は、参加者数が順調に増加しており、この事業では、自転車の走行距離に応じたポイント付与を行っています。

さらには、自転車を利用する理由についてのアンケート調査結果でも、健康に良いと答えた人が最も多く、自転車を活用した健康増進への意識の高まりがみられます。

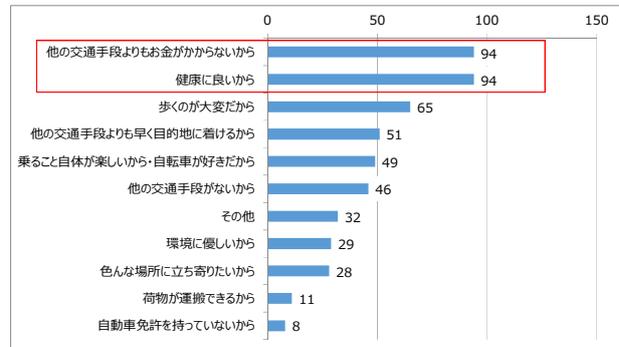
自転車を利用する理由



全世代(複数回答可)



65歳以上(複数回答可)



40歳代以下(複数回答可)

出典：移動手段に関する市民アンケート調査

「だれもが“健康とエコ”に自転車が使える」の課題

- ・自転車を活用した健康増進意識の高まりを活かした自転車通勤の促進を図る必要があります。



6)「だれもが自転車で“つながる”」に関する取組状況

①公共交通との連携強化

交通結節点における自転車利用の促進については、NCCの形成やLRTの導入をはじめとした公共交通ネットワークの構築を見据え、LRT停留場付近への駐輪場整備について具体的な検討を進めています。

また、バス停付近の駐輪場については、令和2年度末までに13か所を整備して目標を達成しました。

バス停付近への駐輪場整備箇所数

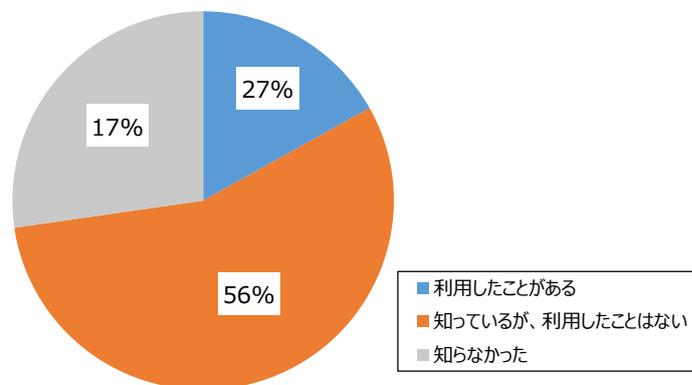
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R2 (目標)
累計整備箇所数 (箇所)	3	4	4	7	7	8	9	11	12	13	13
市内全体 累計整備箇所数 (箇所)	12	16	19	24	26	29	30	32	33	34	

②広域的な周遊促進

広域的なサイクリングルートの設定については、サイクリストのニーズを踏まえ、宇都宮ブリッツェンの監修により、市外の観光地などへつながる広域サイクリングルートを6ルート設定するとともに、自転車マップの作成やホームページ等への掲載などルートのPRを図ってきましたが、認知度がまだ低い状況です。

自転車マップ配布数

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
累計配布数 (百部) ※作成数の累計	110	220	330	402	402	427	507	587	663	733

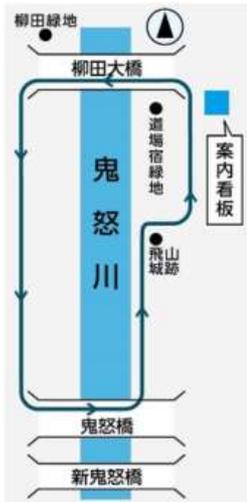


出典：移動手段に関する市民アンケート調査

自転車マップの利用・認知の有無 (n=1,026)



また、サイクリングロードの整備延伸については、新たに広域的に連続した快適な自転車走行空間を確保し、日常利用のほかレジャーなど多様な自転車利用を促進するため、鬼怒川サイクリングルート周回コース（約8km）や山田川サイクリングロード（約11km）の整備、ルート案内などのサイン表示等の設置を進め、山田川サイクリングロードにおいては、令和2年度末に全線開通しました。



鬼怒川サイクリングルート周回コース

「だれもが自転車で“つながる”」の課題

- ・市民の移動を支えるため、LRT 停留場付近や主要バス停付近への駐輪場整備を進めるなど、自転車と公共交通の連携強化を図ることが必要です。
- ・サイクリングルートやサイクリングロードを活用した広域的な周遊促進を図ることが必要です。



## 2.3 評価結果のまとめ

「自転車のまち推進計画」の推進にあたっては、前期計画5年間・後期計画5年間において、それぞれ施策の進捗状況を評価する「活動指標」と、施策の実施効果を評価する「成果指標」を設定し、毎年取組状況の確認・評価を行ってきました。

### 1)活動指標

活動指標は12項目あり達成状況は以下のとおりです。宮サイクルステーションについては利用者が減少傾向にあり達成度が低くなっていますが、その他の指標については、目標達成に向けて着実に事業が推進されており、概ね順調に推移しています。

活動指標の達成状況（令和2年度末時点）

指標		前期計画		後期計画	
		H27	目標値	R2（見込）	目標値
1	自転車走行空間の整備延長	21.7km	25.4km	51.3km	57.7km
2	宇都宮ブリッツェンと連携した交通安全教室	8校/年間	16校/年間	5校/年間	—
3	スクエアード・ストレイト方式による交通安全教室	14校/年間	6校/年間	8校/年間	—
4	レンタサイクル拠点・利用者数	7箇所	14箇所	8箇所	—
		45,582人	41,000人	47,590人(R1)	—
5	自転車の駅の設置数	44箇所	36箇所	58箇所	—
6	鉄道駅周辺の市営駐輪場収容台数	8,692台	8,512台	8,549台(R1)	—
7	中心市街地における市営駐輪場の利用者数	46,162人	—	124,990人(R1)	70,000人/年間
8	モビリティセンター利用者数（宮サイクルステーション）	5,194人	—	3,969人(R1)	6,200人/年間
9	出前講座開催数（H30設定）	—	—	6回	8回
10	バス停付近への駐輪場整備箇所数	7箇所	—	13箇所	13箇所
11	LRT停留場付近への駐輪場整備箇所数	—	—	停留場付近への駐輪場設置に向けて、民間事業者との連携を図りながら、段階的に整備を進めていく。	
12	自転車マップ配布数	40,200部	—	73,300部	—



## 2)成果指標

成果指標は3項目あり達成状況は以下のとおりです。いずれも目標の達成度が低い状況にあり、引き続き安全性の確保や自転車の利用促進、「自転車を利用しやすいまち」として認識してもらえるための取組の強化が必要です。

成果指標の達成状況

	指標	実績	目標値
1	自転車に関連する交通事故件数 <sup>※1</sup>	H22：629件→ R1：428件	320件以下
2	自転車交通分担率	H22：17%→ R1 <sup>※2</sup> ：13.3%	25%
3	市民満足度 〔「自転車を使いやすいまち」という回答割合〕	H22：29.6%→ R2：30.8%	50%

※1:交通事故件数は年単位

当該年1月～12月までで算定

※2:R1は市民アンケート調査結果に基づき算定

各項目の詳細は以下の通りです。

## ①自転車に関連する交通事故件数

自転車の走行位置の明確化や交通ルールの周知・啓発に取り組んだことにより、特にクルマ対自転車の事故は減少しました。しかしながら、よそ見運転やハンドル誤操作などによる単独事故の減少傾向は見られませんでした。

## ②自転車交通分担率

通学利用の多い未成年では分担率が高いものの、クルマを多く利用する成人の分担率は減少傾向にあります。

## ③市民満足度

市営駐輪場の収容台数の拡大や利用料金を安価に設定したレンタサイクルの運営など、利便性の向上に努めた結果、利用者数が増加するなど市民満足度は向上しました。しかしながら、自転車の駅や自転車マップなど自転車関連施策の認知度が低い事業もあることから、さらなる事業の周知等が必要と考えられます。



## 2.4 前計画の取組状況から見た課題

### 1) 評価結果のまとめ

前計画の施策の柱ごとの取組状況や活動指標・成果指標に基づき評価した結果は以下の通りです。

評価結果のまとめ

	評価結果
I 安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 30 年以降自転車に関連する交通事故が増加傾向にあることから、安全な自転車走行空間の整備やルール遵守のための交通安全教室等の充実を図る必要があります。</li> <li>自転車を安全・安心に利用できるよう、ヘルメット着用や自転車保険加入の意識を高める必要があります。</li> </ul>
II 快適	<ul style="list-style-type: none"> <li>レンタサイクルについて、利用者ニーズを踏まえ、利用時間や貸出場所など更なる利便性向上を図る必要があります。</li> <li>駐輪場について、老朽化等に伴う市営駐輪場の再整備と併せた運営方法の見直し検討など、利用者ニーズを踏まえた利便性向上を図る必要があります。</li> <li>自転車の駅について、認知度を高めるとともにサイクリストが気軽に立ち寄れる施設として利便性向上を図る必要があります。</li> </ul>
III 楽しく	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジャパンカップの魅力向上のため、ジャパンカップコースを含めた森林公園の整備などにより、自転車の走行環境の向上や観戦環境の充実を図る必要があります。</li> <li>宮サイクルステーションは、「自転車のまち」の拠点施設として利用拡大を図るため、利用者ニーズに応じた機能拡充や施設規模等の検討を行う必要があります。</li> <li>「自転車のまち宇都宮」のブランド力向上に向け、市内外への情報発信、効果的な PR 方法について検討する必要があります。</li> </ul>
IV 健康とエコ	<ul style="list-style-type: none"> <li>自転車を活用した健康増進意識の高まりを活かした自転車通勤の促進を図る必要があります。</li> </ul>
V つながる	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の移動を支えるため、LRT 停留場付近や主要バス停付近への駐輪場整備を進めるなど、自転車と公共交通の連携強化を図ることが必要です。</li> <li>サイクリングルートやサイクリングロードを活用した広域的な周遊促進を図ることが必要です。</li> </ul>
その他事項 (成果指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自転車の利用機会を拡大し、短時間の移動でも車を利用する過度な「クルマ依存」からの転換を図ることが必要です。</li> <li>ジャパンカップ以外の自転車の取り組みに対する市民の認知度が低いことから、幅広い情報発信等により認知度の向上を図ることが必要です。</li> </ul>

### 2) 前計画の取組状況から見た課題

前計画の取組状況から見た課題は以下の通りです。

#### 「前計画の評価」から見た課題

- 安全性向上、利用促進、認知度向上のための取組強化が必要です。
  - ・ 交通事故削減に向けた安全な自転車走行空間整備、交通安全教育の充実
  - ・ 通勤・通学、買物等の日常生活及び観光などの余暇活動における自転車利用の促進
  - ・ 市民ニーズを踏まえた自転車関連施策の推進及びPR強化

